

出版情報

書名・件名	厚生白書(平成5年版)
副書名	未来をひらく子どもたちのためにー子育ての社会的支援を考えるー
編集者・監修者	厚生省
所在地	東京都千代田区霞ヶ関1-2-2
国名	日本
郵便番号	100-45
電話番号等	03(3503)1711
発行日	平成6年4月8日
I S B N	ISBN4-324-04073-7(5104472-00-000)

厚生白書の刊行にあたって

平成5年版厚生白書をここに公表いたします。

我が国は、急速な少子化、高齢化の進展に伴い、21世紀前半には、世界でも未だ経験したことのない本格的な少子・高齢社会を迎えます。こうした中で、福祉や医療など国民生活にかかわりの深い厚生行政の果たすべき役割は、ますます重要なものとなっていくことでしょう。私は、国民の一人一人が心豊かに安心して暮らせる「生活先進国」の建設に向け、これからも全力を尽くしてまいりたいと考えております。

今回の白書においては、メインテーマとして子どもをめぐる問題を取り上げておりますが、これは高齢化への対応と並んで、厚生行政のいわば車の両輪ともいうべき重要な課題であると考えたからです。

今の子どもたちは、私自身の少年時代に比べて、概して恵まれた中に育ち、特に物質面では豊かな生活を享受しています。しかしながら、その一方で、ゆとりの減少や受験競争の激化、登校拒否の増加など心配な面も少なからずみられます。

また、我が国の出生数は、近年一貫して減少を続け、最近では年間120万人程度となっており、これは20年前の6割という数字です。この出生数の減少は、これからの我が国の社会のあり方について大きな影響を及ぼすことでしょう。

子どもは親にとってかけがえのない存在であるとともに、社会の宝であり、日本の未来でもあります。子どもたちが健やかに、たくましく、生まれ、育っていけるような環境づくりと少子化への対応を進めるために、子育てに対する社会的な支援を強めていくことは焦眉の急と申せましょう。

また、子育てに対する社会的な支援のあり方を考えるにあたっては、厚生行政のみならず、教育、雇用、住宅など関連する複数の行政分野にまたがる総合的な取組みが欠かせません。このため、従来の厚生白書の枠組みにこだわらず、関係省庁の全面的な協力を得て総合的な子育て支援策を示すよう努めました。

このほか、今回の白書においては、保健医療・福祉サービスの総合的な展開、安定した所得保障制度の確立など厚生行政の各分野にわたり、施策の現状を紹介するとともに、当面する課題についてもお示ししております。

この白書が、国民の皆様に広く活用され、厚生行政について一層のご理解とご協力を頂くための一助となれば幸甚です。

平成6年4月 啓伍 大内 厚生大臣